

研究会レポート

地域産業研究会 (社)日本技術士会北海道支部/
北海道技術士センター

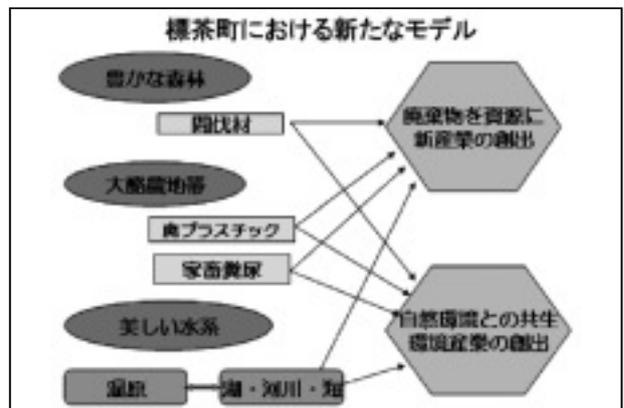
「食」の討論会概要その2

1. 第3回食の討論会

地域産業研究会では、2005年(平成17年度)より「食料問題」を主体に研究を進めています。今回のレポートは2006年6月16日(金)に開催した第3回の「食」の討論会について紹介します。今回の討論会は、これまでの2回の討論会からやや趣が異なり「農と環境」を主体として過疎地域に誕生した新たなビジネスモデルの構築を題材にした講演会と、それに続く討論会の二部構成で行いました。講演は、釧路公立大学 地域経済研究センター長の小磯修二教授を招いて「地方発環境再生ベンチャー企業の挑戦」と題して講演とこれに引き続き討論会を行いました。

わち、都市型では真似の出来ない地方型のベンチャー企業の立ち上げが大切となる。

そこで、ここでは標茶町における環境再生につながる新たな産業と雇用の創出モデルを考え出した。



講演会風景

廃木材(間伐材、建設廃材、伐根物など)+廃プラスチック(農業用廃プラ、一般廃プラ)=高品質の木質複合材の誕生となった。

② 地方型産学連携政策としての取り組み

地方型産学連携政策として、その理念は、

- ・地域の力で新しい産業を興し、安定した雇用を創出していくこと。
 - ・かけがえのない美しい自然環境を守り、再生していくこと。
 - ・そして「地域ゼロエミッション」を目指すこと。
- の三つを挙げられた。

その中で、

- ・標茶の素晴らしい自然と優しく共生しながら、豊かで安定した快適なまちづくり。
- ・風土、文化を大切に、地域に根ざした企業・産業の立ち上げ。
- ・また、地域との連携による産業を育成し、その結果地域の発展につながる。

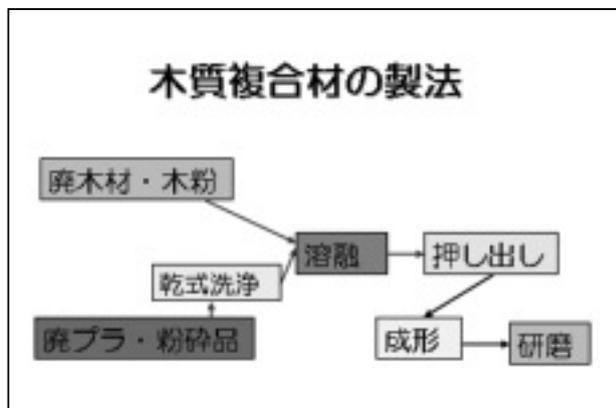
2. 講演会の概要

① 地域の持続的発展に向けての課題と提案

北海道の自主・自立が叫ばれ、道州制や市町村合併が進む中、地域が生き抜くための政策スキームを作ることが大事な要素となっている。

地域自らが産業創出と雇用創出を育むためのキーワードは、産消協働や環境事業そして何より大事なことは地域挙げての支援と協力が必要である。すな

そのために、産学連携政策への取り組みを目指すものとして誕生したのが自然木より優れた「木質複合材」である。



このように、大学の技術活用システムとしての産学連携、地方型起業モデルの確立が大切となる。また、そのコンセプトは、「川と湖を守る、海を守る」：すなわち日本における第一級の自然である「釧路湿原」を守ることが大きな命題として町の連帯につながる。

③ 環境産業の可能性と自立型地域産業の育成
地域に密着した産業による自立型産業を生み、育成するためには

- ・地域の生態系、環境情報に詳しくなること
- ・エコロジーを考慮することがエコノミー（環境に配慮し、環境技術を向上させる）
- ・すなわち、市場での評価につながる
- ・町（住民）の基本コンセプトをもつことである。また、自分たちが望む地域産業づくりを進めていくうえで本当に必要な地域政策、地域サービスは何だろうか？ と考え、それが地方政府でなく、国に委ねられていることで、支障があれば声を出して「規制緩和」を声に出していくことが大切なこととなる。それが、産消協働運動の展開にもつながる。

3. 討論会の概要

講演会に引き続き、小磯先生と出席者により討論が行われました。

概要は、次のとおりです。

- ・木質複合材の活用に係わる環境省との関係

環境省の考え方が、比較的建前であり、自然公園内の遊歩道などは、自然木の使用に限定されている現状にある。

しかし、国立公園の目的の一つに、国民の利用における安心・安全との兼ね合いがあり、この意味でも長期的に劣化のない木質複合材の有効性はある。

- ・品質や強度の劣化の懸念について

室内実験では検証中、一応半永久的と考えられる。

- ・マーケットリサーチとしての位置づけ

標茶の持つ特性を踏まえた

○環境産業→新規→環境技術のノウハウの発揮

○廃棄物マーケット→今後も供給やニーズが大

特に、プラスチック廃棄物の多量発生が期待できる。

- ・地域挙げてのベンチャー支援として、都市型ではまねの出来ない「協働対応」を指向する必要がある、第二、第三の自立型地域産業の出現を期待したい。

- ・北海道における観光産業の原点は、地域産業であり「グリーンツーリズム」などの展開、発展に期待したい。



討論会風景

4. おわりに

今回は、小磯先生をお招きして「食」というテーマを拡大して、講演会と討論会を開催しました。今後も「食」という人間の生存にとって最も大切なものについて幅広く討論会を継続し、発展させていきたいと考えています。

（文責：食の討論会 幹事 伊藤 恒雄）